

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|---------------------|
| 事業所番号 | 4070001286 |
| 法人名 | 社会福祉法人 みのり会 |
| 事業所名 | グループホーム 照日ヶ丘 |
| 所在地 | 福岡県築上郡上毛町大字安雲585-44 |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年2月3日 | 評価結果確定日 | 平成29年3月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>①平屋建て、広い芝生広場等もあり、活動しやすい環境を最大限に活用し、利用者の健康維持に努めている。</p> <p>②法人が今までに培ってきた地域とのつながりを活かし、施設外の活動を充実される。</p> <p>③開設以来実施していることではあるが、希望される方には看取りも行っており、質の高い看取りができるように職員研修の充実を含め、力を入れている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>「グループホーム照日が丘」は同法人の特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスが隣接する広大な敷地に建てられ、広い芝生公園では家族交流会「ふれあいの集い」が行われ、そこで行われる焼きそば作りや唐揚げ等の持ち込み、食事会によって家族同士の交流や利用者とのふれあい等自然の中で、事業所と家族の関係がさらに深まっている。遠出にもチャレンジし「昭和の町」へ出かけ、大衆食堂や昔の給食、ボンネットバスに乗るなど、懐かしい体験もしていただいている。個別計画には、行きつけの美容室やホームでの役割(自室掃除や洗濯もの干し)等具体的実践できるように示され、個々の暮らし方や希望が尊重されている。今後も地域と共存しながら多様な役割が期待される事業所である。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|--------------------|-----|---|---|---|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型の意義を理解し、また理念を分かりやすく具現化し、共通の意識の中で取り組めるようにしている。 | グループホーム独自の理念が掲示され、1回/年、理念についての研修が行われている。地域密着型サービスの意義を理解し、地域との交流や外出などに取り組んでいる。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事に積極的に参加させて頂いたり、地域の中での買い物や散歩の際は、挨拶を交わしたりしている。 | 近隣の小学校に車いす体験を支援するために訪問したり、運動会に参加するなど地域交流を図っている。また地域の遺産である神楽見学に出かけるなど、昔ながらの文化を大切にしている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護者教室に参加し、相談を受けたり、適切なアドバイスが出来るように努めている | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では、現状や課題に向けた取り組みを報告し、意見をいただくようにしている。 | 運営推進会議では長寿福祉課、民生委員等のほか、家族の参加があり、活動状況の報告などが行われている。家族からはホームでもとに行われる調理に関し、ノロウイルスに対する食の安全対策等についても質問がありその都度説明し、理解を得ている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護保険更新時や運営推進会議の際に現状や取り組みを報告し、また担当者からも情報をいただいている。 | 市町村とは介護保険上の不明点の問い合わせ等、適宜連携を図っている。ケースワーカーが定期的に訪問し、情報共有を図っている。また、生涯学習センターで、「介護劇」を行う等地域貢献を行っている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束になる介護方法を具体的にあげ、職員全員が理解できるようにしている。落ち着きのない利用者については、一緒に散歩に出かけるなどの対応を図っている。 | 身体拘束や高齢者虐待について、内部研修が行われている。両ユニット間は自由に行き来でき、玄関にはセンサーで安全対策がされている。帰宅願望や妄想のある方へは、同行や車での外出等気分転換も図りながら、自由を制限せず思いを大切にした対応に努めている。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待事例を話し合う機会を作るとともに、職員負担などにも改善の目を向けて、職員の資質向上及び精神的負担の軽減を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度を利用される方がいたため、定期的に司法書士と話し合う機会があり、また成年後見制度を利用が選択肢に入っている利用者がおられるために、常に協議している。 | 権利擁護事業や成年後見制度については、以前活用の実績もあり、必要時には説明できるよう、パンフレット等の準備をしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時に十分な説明を行い、理解していただいている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族面会時には、職員から声掛けし、話を伺えるような雰囲気作りを心掛けている。意見については、早期に日々のケアなどに反映できるようにしている。 | 家族会である「ふれあいの集い」が中庭で行われ、家族どうしが交流しながら焼きそばを調理する姿もみられる等、参加も増え、運営に関する意見も多くなっている。ホーム内での喫煙や外出等に関する多様な意見が聞かれ、改善に努めている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 部署会議や個別会議で要望や意見を言ってもらい、反映できるようにしている。 | 定期的な会議や申し送りの場で、利用者の排泄ケアの方法やコール対応などについて意見が出されている。必要時には法人部長が会議に参加し調整をすることもあり、管理者と共に職員の意見を反映する姿勢がうかがえる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、職員の勤務状況等を把握し、対応している。また、勤務時間については、職員の家庭環境に配慮した対応を行っている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集や使用に関しては、性別や年齢等を採用対象から排除していない。働く職員については、一人一人の能力を認め、職場内及び地域で最大限に活躍できるように支援している。 | 職員の募集や採用は法人として行われ、希望により異動も可能である。現在、20～70歳代の職員が勤務しており、勤務日数や時間帯なども考慮されている。隣接するデイサービスで託児を行えるように配慮され、働きやすい環境づくりが行われている。また資格取得や研修のための休暇なども希望に応じ、対応されている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権教育の研修と取り入れ、利用者や職員一人ひとりを尊重できるように努めている。 | 人権については研修が行われている。利用者への言葉かけや対応については、気づいた時に注意し、本人本位のケアを重視している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内研修を月に数回実施し、職員の育成に努めている。また施設外の研修参加を事業所内で職員間相互で理解できるようにしている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 京築地区福祉施設研修会や施設対抗バレー大会、京築ケア交流会などに参加し、地域連携を図っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今までの生活状況を把握し、困っているところ、こだわっているところ、不安、要望などを理解し、安心していただけるよう対応を図っている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前にご家族の思いなどを担当のケアマネージャーやソーシャルワーカーなどから聞くようにしており、その後不安や要望などを伺い、受け止め、対応するようにしている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族の思いを理解したうえで、出来る限りの対応ができるように努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存能力が発揮できる場面設定や役割などを決めて生活していただいている。特に昔ながらのことなどでは、職員が知らないことが多く、共感したり、教えていただいたことへの感謝の気持ちを大切にしている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の生活状況でご家族と情報の共有を図り、一緒にできることを常に探し、協力し合っている。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所に出向き近所の方と接する場を提供している。(知人がサービスを利用している場合には、会いに行くようにしている) | 個々の生活歴などを聴取し、行きつけの床屋や美容室、お墓参りや親族の集いへの送迎や同行など支援を行っている。外出先から近い、利用者の生家に寄った際には、初めは認識できなかった利用者が敷地に入ると足取りが早くなり、懐かしむ様子もみられている。また、家族に年賀状を出す利用者の支援をする等、関係性を継続するよう取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | みんなで過ごせる時間や気の合った者同士で過ごせる時間などができるようにしており、また途中でその方々が孤立しないように支援している。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業者へ移られた場合は、支援状況を提供し、情報交換を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の会話の中やご家族からの情報から、以前の状況把握に努めている。 | 入居時に、利用者・家族より趣味や嗜好、日課について確認をし、個々の思いや暮らし方の把握に努めている。日々の会話から出た「思い」はスタッフがノートに記入し、共有している。その情報をもとに外出の企画などを行い、「思い」を叶えられるように支援している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や生活環境の把握は、その方を知る上でとても重要なことである為、ご家族や今までに関わったサービス事業所等から情報収集し、ケアに生かしている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムやその日の状態で、出来ることを見つけ出せるようにしている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意見、要望を聞き、見直しを行っている。個人の嗜好に添った個別のケアプランになるように見直しを図っている。 | ケアプランの作成については、「個々の物差しに合わせる」という視点で研修が行われ、事業所全体で計画の実践に努めている。個々の状態や意向に沿って「朝の化粧」「夫との散歩」「美容室での散髪」等具体的にサービス内容が計画され、定期的に評価されている。 | 利用者の思いや課題について、整理・記録することで、より根拠のあるケアプラン、実践につながると思われます。 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員が日々の気づきについては、別に記載し、また職員間で口頭でも伝え、情報の共有を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の思いなど出来るだけ添えるように、外出や外食などに家族と共に行けるようにしたり、一緒に食事や食事提供時間の変更などその場で行っている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域との連携は常日頃から法人全体として行っており、その資源を活用しながら、日々のケアに繋げている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の際に、今までのかかりつけ医に入所後もみていただく事が出来ることを話している。また、かかりつけ医との連携にも配慮し、適切な対応ができるようにしている。 | 利用者の半数以上は、入居前のかかりつけ医を継続しており、家族の同行や職員による同行、情報提供等支援されている。看取りの際には協力医に移管する等、連携を図っている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置しており、利用者の健康管理及び状況変化に対応できるようにしている。また特別養護老人ホームの看護師とも連携を図っている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際には、日頃の状況など照日ヶ丘としての支援状況などをお知らせしている。また退院後の支援がスムーズにいくように入院中から病院の関係者と連携を図っている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族や主治医と協議し、事業所としてできることなどを説明し、理解を得ている。ご家族、主治医と連携を図り、可能な限り希望にかなうように取り組んでいる。 | 状態が変化し必要と判断した場合には、対応について説明し意向を確認している。看護職を3名配置しており、緊急時の対応や医師との連携等スムーズに行えている。家族が居室に泊まり、ともに看取った事例等、経験している。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを整備し、応急手当の対応ができるようにしている。実際に起こった後も反省をし、見直しをするようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。近隣の方にも協力していただけの体制を築いている。 | 併設のショートステイ事業所と合同で、2回/年防災訓練が行われ、うち1回は夜間想定訓練がされている。土木事務所による調査にて裏山が大雨による山崩れを起こしかねないと判断され、避難訓練やマニュアル設置などが養成されている。 | 施設全体として大規模であり、今後は避難訓練への地域住民の参加・役割分担等が期待されます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーを尊重し、言葉遣いには十分配慮しているが、気が付かないこともあるため、職員間で声掛けを行うようにしている。 | 日ごろからプライバシーには配慮した対応に努めている。排泄や入浴時には、特に注意し、対応している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの能力にあった声掛けを実施し、思いや希望などを聞き出せるように努めている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者主体であることを理解し、一人ひとりのその日の状態に合ったサービスができるように、日頃より臨機応変な対応に心がけている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝から身だしなみができるように支援している。また、入所後も馴染みの美容室に行けるように支援している。また困難な方は、来ていただき、カット等を行っている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作り、おやつ作りを計画する際には、利用者の意見が聞き出せるようにしている。また片付けなどにも積極的にかかわっていたいっている。 | 基本的には併設の施設より食事が提供されるが、6回/月は、大学芋・春野菜炒め・おはぎ・フレンチトーストなど、買い物から調理まで利用者と共にしよう、楽しむ工夫がされている。日々の食事の中で1品は選択が可能で、その都度利用者の意向が尊重されている。また、1回/月利用者の希望に沿った外食があり、法人からの費用負担もある等、配慮されている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の摂取量を把握しており、食事がとれなくなった際には、栄養士等と相談しながら対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を認識し、毎食後の口腔ケアを行っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 可能な限りトイレでの排泄を実施し、下剤に頼らずに排泄ができるようにしている。 | 排泄パターンを把握しトイレ内の立位保持の方法などケアの統一を図りながら、おむつ外しに取り組んでおり、現在看取りの方以外オムツ着用せず、日中・夜間ともにトイレ誘導を行う等、機能の維持や排泄の自立をすすめている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤に頼らずに、水分や乳製品の摂取、運動に心がけている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | その日の希望を確認し、出来る限り希望に沿えるようにしている。また拒否などの利用者にも、時間をずらすなどの対応が可能であり、声掛けに工夫しながら対応している。 | 3回/週程度入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行い、希望や体調、状況に応じ柔軟に対応している。季節に応じたゆず湯などの提供もされている。外泊される利用者が自宅で入浴することもあり、その際には注意点を説明し支援している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中活動の参加を促し、生活リズムが整うように支援している。また、夜間起きられた方には、温かい飲み物などを飲んでいただきながら話を聞くなど、安心していただけるようにしている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が利用者氏名を確認しながら、服薬援助している。また、薬の副作用を職員が理解しており、何かの際には、連携しながら対応できる。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活の中に可能な限り役割を持っていただくようにしており、また、定期的な外出なども行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの楽しみに合わせて、買い物や外出を行なっている。また墓参りなどもご家族の協力を得ながら実施している。 | 高台にある広大な敷地の中に事業所が位置し、東屋が設置されている芝生公園にはリビングの大きな窓から出入りできる。配偶者が毎日訪れ、散歩に出かけたり、畑でとれたホウレンソウや大根の収穫をする等、日常的に行われている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族と相談し、少額でも持っていていただくようにしている。事務所で管理している方も、買い物などの際に自分で払っていただくようにしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | いつでも電話ができるように、両ユニットに子機を設置している。手紙や贈り物が届いた際には、お礼の電話ができるように支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔に心掛け、季節を感じていただけるように花を飾るなど、心地よく生活していただけるように配慮している。 | リビングは吹き抜けとなっており、天窓から差し込む太陽の光で明るく開放感がある。白い壁には、利用者個々の状態に応じて制作された貼り絵や切り絵、書道、折り紙などが飾られている。広い空間の中にはソファや掘りごたつの和室コーナーなども設置されくつろげるようになっている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールや玄関前、外の東屋などに座れるようにソファなどを設置しており、個別に楽しめるようにしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に、使い慣れたもの、思い出の品物がなぜ必要なのかを説明し、可能な限り持ってきていただくようにしている。(運搬も援助している。)その後の設置に関しても、助言しながら環境作りを行なっている。 | 各居室には椅子や家具、仏壇、冷蔵庫などなじみの物が持ち込まれている。和室の設置がある居室もあり、個々の特徴が出されている。広い空間であり家族と共に過ごせるよう配慮されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 物の配置等も拘り、安全で自立した生活ができるように配慮している。 | | |